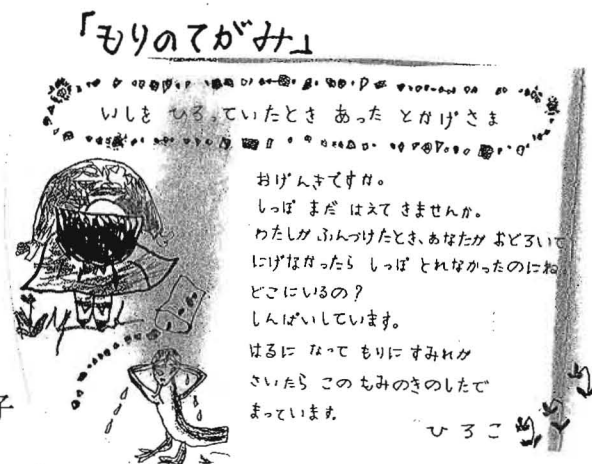


冬休みの お便り

24年 新潟青陵幼稚園 加藤 由美子



15日の「アドヴェントの庭」においでいただきましてありがとうございました。子どもたち一人ひとりの子どもらしい姿に感動いたしました。

「アドヴェントの庭」のために、甘いみつろうの香りが漂う中、自分のろうそくを作って、アドヴェントの庭の行事を待っていた子どもたちです。

当日、ろうそくの光だけの非日常の世界に目をみはり、驚いたり、緊張したり、興奮したり、一人ひとりいろいろな姿が見られました。その姿は一人ひとりのその子らしい姿でした。こうした一人ひとりの“その子らしさ”はとても貴重です、その子らしさを大切にしたいと思っています。

子どもたちは一度も練習をしないで当日を迎えました。保育者も、言葉で「ここまで来たらこうする」とか「ここでこうしなさい」などと言っているのではないのです。一番初めにやる“保育者の真似”をして行うだけなのです。保育者の指示や命令などなくても、子どもたちはやれるのです。

なぜでしょう？・・・それは子どもたちが“模倣の能力を持っている”からなのです。お手本を見て、真似をして行うのです。

その模倣の力を持っている子どもたちである事を“信じて”“まかせる”ことが私たちに求められます。

そしてもう一つ必要なのは、結果をとやかく言わない事です。とにかく、子どもたちがやった時の姿から「あ～すればよかったのに」とか「こうしないとだめでしょ」などと言ってしまいがちですが、目に見えることをとやかく言うのではなく、子どもが行っている間に、鋭い感覚で得た事をそっと守ってあげる事が重要なのです。子どもたちは自分で自分の心を耕すことができるのですから・・・この事が信じられない大人は、言葉で子どもに教えてあげようとしてしまいます。子どもは大人よりずっと深い思いを感じているはずなのですが・・・

大人は、自身の内面を省みてみなければなりませんね。自分は乏しい内面でありながら、子どもにだけは、あれもこれもと求める事が多くなってはいないかと・・・自戒しつつ

さて、幼稚園のクリスマスツリーには、金色の包み紙でつまれたプレゼント形の飾り、そして、傘の柄のような形のキャンディーを模した飾り、それから赤いリンゴの飾りなどがツリーに飾られています。子どもたちにとっては魅力的なのですね。カラーボックスを重ねて、その上に登って、ツリーに手を伸ばしていた子どもたち、視線があうと、「えへ・・・」といった表情で苦笑いをしながら伸ばした手を引っ込めている姿も見られました。

ある日、プレゼントの形の飾りが下に落ちていて、その包みが開かれているのが見つかりました。また別な日には、キャンディーの形の飾りが折られて、歯型！（うふふ）がついているのも見つかりました。子どもたちの愛おしいこと・・・本当のプレゼントが入っている箱と本物のキャンディーを飾ってあげたかったな～・・・

皆様のご家庭では、サンタクロースはくるのでしょうか・・・各ご家庭でいろいろとお考えがあることと思いますが、サンタクロースという想像の世界は、大切にしたいと思っています。・・・子どもたちが大きくなっても、黙ってサンタクロースを続けてあげるのもいいものですね。“サンタクロースはいない”と大きくなった子どもたちが自分で気づいても、知らんぷりをしてプレゼントを続けていくのも「あなたのこと、いつも思っているよ」ということが子どもたちの心に届くような気がします。

現実的な現代社会ですが、せめてもう少しの間、心の片隅に想像の世界を持ち続けてほしいですね。

さて、今学期も無事終わりを迎えられました。皆様からいただく温かなお言葉、力強い励ましのお言葉をいただき、また、たくさんのご協力をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

皆様どうぞ良いクリスマスと、そして良いお年をお迎えください。

1月の主な予定

8日（火）始業式 11:30 降園

9日（水）餅つき会 12:00 降園 いつもと時間が違います。幼稚園バスご利用の方は、午前保育のバス時間に30分プラスしてお待ちください。

10日（木）給食開始 2:00 降園

16日（水）誕生会

23日（水）～個人懇談開始